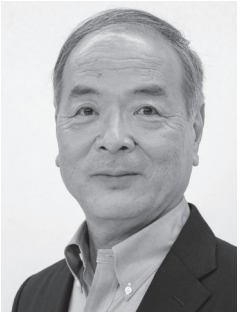
A4チラシ裏面

遷延性意識障害者・家族の会九州「つくし」秋の講演会 in 宮崎（10周年記念）
全国遷延性意識障害者・家族の会21周年記念講演会
「誰一人取り残さない防災に向けて」

【講師プロフィール】

立木 茂雄氏 同志社大学社会学部社会学科 教授



専門は福祉防災学。特に大災害からの長期的な生活復興過程の解明や災害時の要配慮者支援のあり方など社会現象としての災害に対応する防災学を研究。1995年の阪神、淡路大震災時には、関西学院救援ボランティア委員会を組織し、約3カ月間で延べ7500名の学生ボランティアのマネージメントに当たった。また、2011年の東日本大震災時も、直後より現地に入って長期的な生活再建支援に関わり、障害者の被災から復旧復興までの支援について研究している。「誰一人取り残さない防災」をキーワードとした著書を多く出版。NHK総合や、NHK Eテレハートネットにも出演。

【講演会趣旨】

災害時に被害が集中しやすい高齢者や障がい者を守るには、「災害を生きる力」を高めることが大切です。具体的には、①当事者や家族が「脅威の理解」・「備えの自覚」・「とっさの行動への自信」（これらを防災リテラシー「三種の神器」と呼びます）を高めること、②「誰一人取り残さない」地域の力を高めること、そして、③平時の福祉と災害時の防災を切れ目なく連結させるために、行政が内外の関連組織の連結に汗を流すこと、この三つの力の集結が大切です。災害を生きる力を高め、誰一人取り残さない防災の先進的な事例を交えて紹介します。

遷延性意識障害者・家族の会 九州「つくし」について

遷延性意識障害とは、ある日突然不慮の事故や病気により脳に重大な損傷を受け、一命は取り留めたものの意識障害が遷延している（続いている）状態で、自力で動くことも、食べることも、話すことも、呼びかけに応じることもできない、最重度の障害です。

病状や障害の重さに加え、転院先、リハビリテーションやデイサービス・ショートステイの受け入れ制限など、医療・介護、制度上の様々な問題に直面し、将来への不安を抱え、24時間在宅介護で孤立状態にある家族、不安や疑問を相談できずに苦しんでいる家族も少なくありません。

そこで私たちは、2015年4月遷延性意識障害者・家族の会九州「つくし」を発足しました。

「つくし」のように、厳しい冬から明るい春に向かって少しずつでも伸びていけるように、助け合い、学び、一般の方々にもこの障害について理解してもらえるよう情報発信し、行政に働きかけ、当事者とその家族が安心して暮らせる社会を求めて活動しています。

多くの方々のお力添えを、心よりお願い申し上げます。

参加申込書（FAX:092-526-0616）（E-mail : kyusyu.ishiki@gmail.com）

▶参加ご希望の方は、FAXあるいはメールにてお申し込み下さい

▶Zoom 参加の方は以下の内容をメールでご連絡下さい。

（該当する物に○をつけて下さい）

会 員（ 家族会員、賛助会員、ボランティア会員 ）、一 般（ 当事者・家族、その他：　　）

会場参加 ・ Zoom参加　　懇親会参加 ： 有 ・ 無

フリガナ	所属（医療・介護・福祉関係・行政など）
お名前 ご住所 〒	電話番号 FAX E-mail